

科目	国際金融論	担当	鈴木 武	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

経済の持続的な成長のため、健全な金融システムが不可欠である。経済のグローバル化が進展する中、国際的な資金の流れや国際金融システムの仕組みを知ることが求められている。本講義で貿易金融、外国為替相場、国際通貨制度、国際収支など国際金融の基本的知識を習得し、最近の国際金融のトピックスを理解できることを講義の目標にする。

【履修注意】

講義は講師からの一方的なものではなく、できる限り生徒との対話を心掛ける。そのためにも講義内容は事前の予習と復習を前提とする。講義の始めに前回の復習問題と答え合わせをする。

【評価方法】

出席状況及び受講態度を40%、テスト(期末総合テスト)を60%で評価する。

【試験について】

期末テストを実施する。

再試験対象者の条件： 上記の評価で60%未満のものは、再試験もしくは課題を設定しレポート提出を求める。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要である。

【教科書】

講師作成プリントを事前に手交する。

【参考書】

書籍名： 国際金融の仕組み 著者： 秦 忠夫・本田 啓吉 出版社： 有斐閣アルマ

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	国際金融論概説	講義の導入。基礎知識、歴史、用語解説
2	最近のトピックスⅠ(米国)	トランプ大統領の保護主義政策、米国経済のトレンド、格差社会
3	同上Ⅱ (アジア)	中国経済の現状、インド経済の興隆、ASEAN諸国の経済展望
4	同上Ⅲ (欧州)	英国のEU離脱、EU経済の展望、南欧の債務危機
5	貿易金融	輸出・輸入取引の流れ、銀行の役割、荷為替信用状の開設
6	外国為替相場	為替相場の仕組み、相場の種類、為替と金利の関係
7	相場の決定要因	実需と投機、市場介入、為替リスクヘッジ、新聞の相場解説
8	国際収支の見方	国際収支表の解説、国際的な資金移動、主要国の国際収支推移
9	国際通貨制度	仕組みと歴史、金本位制、ドルへの信認、ユーロの誕生
10	通貨危機の歴史	欧州、中南米債務危機、アジア通貨危機、リーマンショック
11	グローバルな国際金融市場	市場のグローバル化の現状、銀行間競争、IT革命
12	新興国の抬頭	中国元の国際化、新興国金融市場の特徴、通貨スワップ協定
13	日本の金融国際化の現状	対外投資大国への道、少ない円決済、為替ヘッジの現状
14	国際金融市場の今後の展望	金融緩和の行方、米国の金利引き上げ、中央銀行の国際協力
15	これまでの講義のまとめ	* 金融・経済用語の基礎知識
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ